

乙 第 号

山内 孝之 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	田中 康仁
論文審査担当者	委員	教授	佐伯 圭吾
	委員(指導教員)	教授	岸本 年史

主論文

高圧酸素療法がゴルフ競技後の疲労と睡眠に与える効果の検討

山内 孝之, 上田 淳哉, 牧之段 学, 紀本 創兵, 岸本 年史

最新精神医学 25 卷 6 号 Page523 – 529 (2020.11.24)

論文審査の要旨

高圧酸素療法によるゴルフによる疲労ならびに睡眠への影響を検討した研究で、オープンラベルのランダム化交差法という手法を用いている。被験者 20 名に対して介入を行い、高圧酸素療法を行うと顕著にゴルフ後の疲労回復効果が得られ、睡眠の質も向上することを、各種自記式質問紙や血圧等を用いて証明している。

スポーツとしてゴルフを選んだ理由としては、年齢を問わず競技可能で、これまでにゴルフは認知症に効果があることが示されていたため、精神疾患への応用としては適切であるとの判断であった。交差試験であるので2回目に介入を行う場合の効果の持越しが問題になるのではという質問には、先行研究から十分な期間を開けているということであった。また、盲検化は難しいのかという質問には、高圧になるので被験者にはわかってしまうが、高圧酸素群では脈圧が下がるなどの客観的な結果も出ているので信頼できるとのことであった。

明確に高圧酸素療法の有効性を示した内容で、極めて独創的な研究である。精神医学領域への応用範囲も広く、医学の進歩に貢献できる研究であると評価する。

参 考 論 文

1. 当院のリワークプログラム参加者における復職に関連する因子の検討
原田 泉美, 松田 康裕, 盛本 翼, 上田 淳哉, 山内 孝之, 永野 龍司
井上 慶一, 大塚 紀朗, 岸本年史
精神科 37 巻、3 号 Page320-330, (2020.09)
2. 運動と自閉スペクトラム症
松田 康裕、牧之段 学、山内 孝之、岸本 年史
最新精神医学 25 巻 4 号 Page377-382 (2020.09.25)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学行動神経科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

運動器再建医学

教授 田中 康仁

学位審査委員

疫学

教授 佐伯 圭吾

学位審査委員(指導教員)

精神医学行動神経科学

教授 岸本 年史